

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	意思決定特論	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平良 直之	1年	産業情報学科 平良直之 email: ntaira@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 経営組織体における意思決定は企業利潤に大きく影響を及ぼし、意思決定を効果的に行うためには、問題に関わる情報収集、現状分析、代替行為の決定といった一連のプロセスを理論的根拠に基づき実践することが必要となる。本講義では、意思決定問題に対する数理的なアプローチについて概観する。	メッセージ 事例を紹介しながら解説するよう努めますが、自身の研究分野でどう活かせるかを念頭におき受講して下さい。
	到達目標 業務計画の科学的アプローチを理解する。	

学びの準備	到達目標 業務計画の科学的アプローチを理解する。
-------	-----------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） <ol style="list-style-type: none"> 1. 意思決定論と経営学 2. 意思決定のプロセス 3. 経済学的アプローチ 4. 経営学的アプローチ 5. システム分析的アプローチ 6. 日程管理 7. 在庫管理 8. 線形計画法 9. 目標計画法 10. 階層分析法(i) 11. 階層分析法(ii) 12. グラフとネットワーク 13. マルコフ連鎖 14. ベイジアンネットワーク 15. 総括
	テキスト・参考文献・資料など テキスト 第1回の講義にて周知する。 参考文献 (1)松原望 著「意思決定の基礎」,朝倉出版 (2)木下栄蔵 著「わかりやすい意思決定入門」,近代科学社 (3)大鹿謙・一森哲男 著「オペレーションズ・リサーチ」,共立出版

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト 第1回の講義にて周知する。 参考文献 (1)松原望 著「意思決定の基礎」,朝倉出版 (2)木下栄蔵 著「わかりやすい意思決定入門」,近代科学社 (3)大鹿謙・一森哲男 著「オペレーションズ・リサーチ」,共立出版
-------	---

学びの実践	学びの手立て 講義内容を自身の研究内容と関連付けながら課題取り組むこと。
-------	---

学びの実践	評価 レポート (50%) , プレゼンテーション (50%) により評価する。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージとして特殊研究がある。
-------	----------------------------------

※ポリシーとの関連性 学ぶ姿勢と学ぶ力を付ける。自分で考えて、自ら動いていく力を付ける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	インターネット・マーケティング特論	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹・安里 肇	1年	講義終了後に教室で受け付ける。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業を通して、インターネットマーケティングの成り立ちと現在の状況を知る。そして今後のインターネットがいかにしてビジネスの発展に関連し拡大していくかを考える。マーケティングとインターネット関係を学ぶ。	特論科目を単なる単位・学ぶべきものとするのではなく、講義を通してその科目の楽しさ、理論の重要性、社会への影響に気づくことが大切です。

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. インターネットマーケティングの概要を知る。 2. マーケティングとITCの基本理論を学ぶ。 3. 地域とマーケティングの関係性を知る。 4. インターネットビジネスの発展に対してマーケティング的基本提言できるようになる。

学びの実践	学びのヒント <u>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</u>
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：授業にて指定する。また、必要に応じて授業の中でプリントを配布する。参考文献も必要な時に発表する。

学びの手立て 履修の心構え： ①出席・授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る、④他の院生に迷惑を掛けない。 学びを深めるために： ①マーケティングとインターネットの関係を知る、②議論に積極的に参加する、③マーケティング関連の専門誌を読む。

評価 評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①出席、②プレゼンテーション、③レポート、④授業での態度、⑤課題提出物。

次のステージ・関連科目 マーケティングとインターネットに関連した書籍を読むこと。一般教養もしっかりと学ぶこと。
--

学びの継続

※ポリシーとの関連性

マクロ経済政策に関する専門知識の習得を通じて、経済現象を論理的に把握する能力を養う。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	応用マクロ経済学特論	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 正茂	1年	m.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	マクロ経済学における諸理論の検討およびマクロ経済政策関連文献の輪読を通じて、経済現象を科学的に分析する能力を養成する。	ディスカッションが講義の中心になりますので、問題意識をもって講義に臨んでください。

到達目標	マクロ経済政策を理論・実証の両面から理解し、経済現象を科学的に分析することができる。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション - 講義概要、アンケート等 -	
	2	日本経済概観 - マクロ経済政策、経済成長、地域経済政策等 -	日本経済論に関する予習
	3	経済成長論① - 経済成長の要因 -	マクロ経済学の復習
	4	経済成長論② - 開発と経済発展、労働移動モデル、GDPと幸福度 -	開発経済学関連文献の精読
	5	労働市場 - 摩擦的失業と構造的失業、失業とインフレーション -	労働経済学関連文献の精読
	6	経済政策 - 財政政策、金融政策 -	マクロ経済学関連文献の精読
	7	中間評価 - 前半のまとめ、研究テーマ報告 -	指定文献の精読
	8	文献の輪読① - レジューメ作成・報告、解説、ディスカッション -	指定文献の精読
	9	文献の輪読② - レジューメ作成・報告、解説、ディスカッション -	指定文献の精読
	10	文献の輪読③ - レジューメ作成・報告、解説、ディスカッション -	指定文献の精読
	11	文献の輪読④ - レジューメ作成・報告、解説、ディスカッション -	指定文献の精読
	12	文献の輪読⑤ - レジューメ作成・報告、解説、ディスカッション -	指定文献の精読
	13	文献の輪読⑥ - レジューメ作成・報告、解説、ディスカッション -	指定文献の精読
14	文献の輪読⑦ - レジューメ作成・報告、解説、ディスカッション -	指定文献の精読	
15	文献の輪読⑧ - レジューメ作成・報告、解説、ディスカッション -	指定文献の精読	
16	期末評価		
	テキスト・参考文献・資料など 適宜資料を配布する。 輪読する文献は講義時に指定する。		
	学びの手立て マクロ経済学、経済政策関連の文献を読んでおくこと。		
	評価 受講態度 (50%)、提出物 (50%) で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 産業組織特論、地方財政特論
-------	------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄経済特殊研究Ⅰ	通年	月5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前泊 博盛	1年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 沖縄経済に関する基本データの収集、分析、解析を行います。沖縄県が発行する『経済情勢（平成29年度版）』など基本情報を入手し、沖縄県経済が抱えている諸課題について事前に整理しておく、講義・学習の理解が一層深まります。	メッセージ 修士論文のテーマに沿って、先行研究の調査、収集、分析、修士論文の章立て、データ収集、分析、基本理論の理解と展開を受講生間で論議し、視野と視点を広げます。
	到達目標 1：経済を学ぶ上で必要な基本データの入手方法を習得します。 2：基本データの分析・解析手法を習得します。 3：課題の抽出方法を習得します。 4：課題解決法を調査・研究する力を習得します。 5：調査・分析した結果を論文としてまとめる力を身に着けます。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	沖縄経済特殊研究の概要（ガイダンス）	修士論文の章立て
	2	修士論文のテーマ報告	修士論文の研究計画の作成
	3	修士論文の研究計画報告	沖縄県アジア経済戦略構想の通読
	4	「沖縄県アジア経済戦略構想」を読み解く①	// 分析分担部分のPPまとめ
	5	「沖縄県アジア経済戦略構想」を読み解く②	// 分析分担部分のPPまとめ
	6	「沖縄県アジア経済戦略構想」を読み解く③	// 分析分担部分のPPまとめ
	7	「沖縄県アジア経済戦略構想」を読み解く④	// 分析分担部分のPPまとめ
	8	「沖縄県アジア経済戦略構想」を読み解く⑤	// 分析分担部分のPPまとめ
	9	「沖縄県アジア経済戦略構想」を読み解く⑥	// 分析分担部分のPPまとめ
	10	「沖縄県アジア経済戦略構想」を読み解く⑦	// 分析分担部分のPPまとめ
	11	「沖縄県アジア経済戦略構想」を読み解く⑧	// 分析分担部分のPPまとめ
	12	フィールドワーク「ANA国際航空貨物ハブ」	ヒアリング先の質問整理とアポ
	13	フィールドワーク「那覇港国際クルーズ船ターミナル」	ヒアリング先の質問整理とアポ
	14	フィールドワーク「DFSの観光戦略」	ヒアリング先の質問整理とアポ
	15	フィールドワーク「沖縄県企画部ヒヤリング」	ヒアリング先の質問整理とアポ
	16	前期総括	修士論文中間報告
	17	沖縄経済特殊研究Ⅱ（後期概要ガイダンス）	修論の概要報告（進捗状況発表）
	18	「21世紀ビジョン基本計画（改訂版）」を読み解く①	// 分析分担部分のPPまとめ
	19	「21世紀ビジョン基本計画（改訂版）」を読み解く②	// 分析分担部分のPPまとめ
	20	「21世紀ビジョン基本計画（改訂版）」を読み解く③	// 分析分担部分のPPまとめ
	21	「21世紀ビジョン基本計画（改訂版）」を読み解く④	// 分析分担部分のPPまとめ
	22	「21世紀ビジョン基本計画（改訂版）」を読み解く⑤	// 分析分担部分のPPまとめ
	23	「21世紀ビジョン基本計画（改訂版）」を読み解く⑥	// 分析分担部分のPPまとめ
	24	「21世紀ビジョン基本計画（改訂版）」を読み解く⑦	// 分析分担部分のPPまとめ
	25	「21世紀ビジョン基本計画（改訂版）」を読み解く⑧	// 分析分担部分のPPまとめ
	26	フィールドワーク「観光産業」	ヒヤリング先の質問整理とアポ
	27	フィールドワーク「米軍基地」	ヒヤリング先の質問整理とアポ
	28	フィールドワーク「モノづくり産業」	ヒヤリング先の質問整理とアポ
	29	フィールドワーク「金融業」	ヒヤリング先の質問整理とアポ
30	フィールドワーク「福祉・医療産業」	ヒヤリング先の質問整理とアポ	
31	後期総括		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 沖縄県『アジア経済戦略構想計画』2017年度版、沖縄県『21世紀ビジョン基本計画（改訂版）』2019年版等</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 基本テキストの通読、関連文献・論文の収集と分析、報告書の概要整理とデータのPP化、発表方法の検討、的確なプレゼン力の向上</p>
	<p>評価 分析と報告の確度、精度、プレゼン力など総合的に評価</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 博士後期課程への進学、研究所での調査研究の継続、実務上の調査分析力の発揮</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄経済特殊研究Ⅱ	通年	火5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前泊 博盛	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	沖縄経済に関する基本データの収集、分析、解析を行います。沖縄県が発行する『経済情勢（平成29年度版）』など基本情報を入手し、沖縄県経済が抱えている諸課題について事前に整理しておく、講義・学習の理解が一層深まります。	修士課程1年目で論文執筆に必要な参考文献・論文・著作・データの収集と図表化を終えておくこと。

到達目標
1：経済を学ぶ上で必要な基本データの入手方法を習得します。
2：基本データの分析・解析手法を習得します。
3：課題の抽出方法を習得します。
4：課題解決法を調査・研究する力を習得します。
5：調査・分析した結果を論文としてまとめる力を身に着けます。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	修士論文執筆指導（個別指導）	修論「はじめに」執筆
	2	修士論文執筆指導（個別指導）	〃
	3	修士論文執筆指導（個別指導）	修論「第1章」執筆修正
	4	修士論文執筆指導（個別指導）	〃
	5	修士論文執筆指導（個別指導）	〃
	6	修士論文執筆指導（個別指導）	修論「第2章」執筆・修正
	7	修士論文執筆指導（個別指導）	〃
	8	修士論文執筆指導（個別指導）	〃
	9	修士論文執筆指導（個別指導）	修論「第3章」執筆・修正
	10	修士論文執筆指導（個別指導）	〃
	11	修士論文執筆指導（個別指導）	〃
	12	修士論文執筆指導（個別指導）	修論「第4章」執筆・修正
	13	修士論文執筆指導（個別指導）	〃
	14	修士論文執筆指導（個別指導）	〃
	15	修士論文執筆指導（個別指導）	修論「中間報告」PP作成
	16	修士論文執筆指導（個別指導）	〃
	17	修士論文執筆指導（個別指導）	修論「第5章」執筆・修正
	18	修士論文執筆指導（個別指導）	〃
	19	修士論文執筆指導（個別指導）	〃
	20	修士論文執筆指導（個別指導）	修論「まとめ」執筆・修正
	21	修士論文執筆指導（個別指導）	〃
	22	修士論文執筆指導（個別指導）	参考文献の整理・修正・追加
	23	修士論文執筆指導（個別指導）	修論「最終報告」PP作成
	24	修士論文執筆指導（個別指導）	〃
	25	修士論文執筆指導（個別指導）	〃
	26	修士論文執筆指導（個別指導）	修論提出書類の作成
	27	修士論文執筆指導（個別指導）	修論印刷
	28	修士論文執筆指導（個別指導）	修論提出
	29	修士論文執筆指導（個別指導）	修論最終審査準備
30	修士論文執筆指導（個別指導）	修論最終審査準備	
31	修士論文最終審査	修論修正・加筆・訂正等	

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
学 び の 継 続	次のステージ・関連科目

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄経済特論	通年	木4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前泊 博盛	1年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄経済に関する基本データの収集、分析、解析を行います。沖縄県が発行する『経済情勢（平成29年度版）』など基本情報を入力し、沖縄県経済が抱えている諸課題について事前に整理しておく、講義・学習の理解が一層深まります。</p>	<p>沖縄経済の特徴となっている「3K経済」を検証します。「観光入域客数」980万人の算定根拠は？「米軍基地依存経済」の実態は？公共事業予算の地元歩留まり率は？身近にある経済データの信ぴょう性を検証します。</p>
到達目標	<p>1：経済を学ぶ上で必要な基本データの入手方法を習得します。 2：基本データの分析・解析手法を習得します。 3：課題の抽出方法を習得します。 4：課題解決法を調査・研究する力を習得します。 5：調査・分析した結果を論文としてまとめる力を身に着けます。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	沖縄経済の概要（統計データをめぐる課題と処方箋）	経済統計の問題点
	2	沖縄経済の基本データの解析	沖縄経済統計の問題点
	3	基地経済データの検証①基地経済の要素分析	基地経済とは
	4	基地経済データの検証②軍用地料	軍用地料の変遷と特徴
	5	基地経済データの検証③軍雇用所得	駐留軍従業員という仕事の特徴
	6	基地経済データの検証④米軍関係消費支出	米軍関係者の消費の中身は。
	7	基地経済データの検証⑤基地経済の波及効果	基地経済の波及はどこまで？
	8	観光経済データの検証①入域客数	入域観光客数の調査方法は？
	9	観光経済データの検証②観光収入	観光収入の調査方法は？
	10	観光経済データの検証③観光波及効果	観光波及効果の調査方法は？
	11	観光経済データの検証④観光産業	観光産業の「範囲」と「定義」
	12	公共事業・公共投資データの検証①内閣府沖縄総合事務局	公共事業費の変遷と地元歩留まり率
	13	公共事業・公共投資データの検証②沖縄防衛局	防衛予算の動きと地域経済の関連
	14	公共事業・公共投資データの検証③沖縄県予算	自主財源と一括交付金の動き
	15	経済統計の確度・精度向上のための手法をめぐる考察	統計データのとり方
	16	前期総括	統計データの精度向上を図るには
	17	後期講義の概観（ガイダンス）	政治経済学的視点からみる沖縄経済
	18	沖縄振興策と沖縄経済①「本土との格差是正」論の検証	格差論の陥穽とは
	19	沖縄振興策と沖縄経済②「所得格差」論の検証	所得格差はなぜ縮まらないのか
	20	沖縄振興策と沖縄経済③「高失業率」の検証	失業率はなぜ高いままか
	21	沖縄振興策と沖縄経済④「自立経済」論の検証	自立経済と自律経済の概念規定
	22	沖縄振興策と沖縄経済⑤「産業構造」の検証	産業構造と格差の関係
	23	21世紀ビジョンの検証①「狙い」	自律経済は、自立経済につながるか
	24	21世紀ビジョンの検証②「目標」	官主導経済の可能性と限界
	25	21世紀ビジョンの検証③「産業政策」	10年先の産業構造
	26	21世紀ビジョンの検証④「離島政策」	離島経済の活性化は可能か
	27	21世紀ビジョンの検証⑤「観光政策」	観光経済の課題と展望
	28	21世紀ビジョンの検証⑦「農林水産業政策」	農業はなぜ復活したか。
	29	21世紀ビジョンの検証⑧「モノづくり産業」	モノづくりの課題と展望
30	アジア経済戦略構想と21世紀ビジョン	アジアの中の沖縄の役割	
31	後期総括	修士論文とは	

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
学 び の 継 続	次のステージ・関連科目

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	環境経済特殊研究Ⅰ	通年	木6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	呉 錫畢	1年	メール (sukpil@okiu.ac.jp) で簡略に書いて、研究室に来ること。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	現在の人類社会は、その存続の前提条件であるはずの生態系そのものの崩壊という危機を含めて、深刻な環境破壊の現実に向き合っている。環境破壊の問題をいかに克服していくことができるかが、21世紀の人類最大の重要課題である。特殊研究Ⅰでは主に環境と経済に関する基礎的なものや、既存研究を検討しながら、各自の論文に必要な基本的な考え方や姿勢を既存論文や本を通して習得する。	研究と私、環境と経済の側面から学問とは何か。
到達目標	社会における問題意識を高めて、環境問題を地域から深める。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>1-2. 論文とは何か 3-4. 環境のための経済学とは 5-6. 環境と経済のメカニズム 7-8. 環境資源と市場 9-10. 市場の失敗 11-12. 経済価値と環境 13-14. 環境と経済に関する論文発表 14-15. 環境と経済に関する論文発表 16. 前期の総括 17. 環境政策の経済的手段の位置づけ 18-19. 課徴金 20-21. ビグー的補助金及びピグー税 22-23. グリーンニューディール政策 24-25. 排出権取引と地球温暖化 26-27. 先進国と途上国の環境思想 28-29. 論文のサーベイ方法 30-31. 環境と経済に関してディスカッション 32. 総括</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>参考文献を中心として複数の本から院生とともに選択する。 呉錫畢 (2008)、『環境・経済と真の豊かさ』、日本経済評論社。 Nick Hanley, Jason F. Shogren and Ben White(2001), Introduction to Environmental Economics, Oxford. 植田和弘・森田恒幸編 (2003)、環境政策の基礎、岩波書店。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>書きたい修士論文のテーマに関わる既存論文や著書をなるべく多くサーベイしてディベートする。</p>
評価	発表や討論のレベルで評価する

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>論文に対する問題意識をしっかりと持ち、修士論文を各段階である環境経済特殊研究Ⅱを備える。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	環境経済特殊研究Ⅱ	通年	月7	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	呉 錫畢	2年	メール (sukpil@okiu.ac.jp) で簡略に書いて、研究室に来ること。	

学びの準備	ねらい 特殊研究Ⅰでは主に環境と経済に関する基礎的なものや、既存研究を検討しながら、各自の論文に必要な基本的な考え方や、論文に対する基本姿勢を本や討論を通して身につけることを目標とした。特殊研究Ⅱでは、このような特殊研究Ⅰで鍛えられたことをベースに、各自のテーマを中心に報告及び自由討論を通して、研究をさらに深めて、修士論文の仕上げを目標とする。	メッセージ 学問とは何か。
	到達目標 修士論文を完成し、研究成果を報告すると同時に研究能力をさらに高める。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) (前期) 自分のテーマに関する研究論文等を読解し、サーベイする。 また、その論文に自分が貢献しうる部分を発見させ、報告してもらう。 また、夏休み前に調査及び研究テーマを設定する。 (後期) 前期で習得したものを土台に、論文テーマをさらに絞り、その研究に対する部分を深化させ、論文の完成に至るように指導する。
	テキスト・参考文献・資料など 修士論文の内容に相応しい書物から院生と話し合って選択する。 Nick Hanley, Jason F. Shogren and Ben White(2001), Introduction to Environmental Economics, Oxford. 植田和弘・森田恒幸編 (2003)、環境政策の基礎、岩波書店。
	学びの手立て 既存の論文や著書を多く読み、サーベイを作成し、自分の考え方を確立していく。
	評価 報告や論文の質で評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会におけるシンクタンク的な役割が果たせるよう努める。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	環境経済特論	通年	月6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	呉 錫畢	1年	メール (sukpil@okiu.ac.jp) で簡略に書いて、研究室に来ること。	

学びの準備	ねらい 環境破壊は経済活動に起因する。ところが、経済と環境は効率と公正との緊張関係にあるのである。沖縄は復帰直後、本土との格差是正や所得向上を目的に各種の振興開発事業を推進してきた。その結果、沖縄県経済の規模は著しく拡大したが、各種の公共事業等で大量の赤土等が流出するようになった。本当の豊かにたながっているだろうか、地域問題から考えてもらうのがねらいである。	メッセージ 豊かさとは何か。
	到達目標 環境と経済、豊かさ、地域からアプローチしながら討論を深める。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 1. 経済と環境への入門 2. 何が公害の原点の水俣病をもたらしたか 3. なぜ環境を学ぶのか 4. 持続可能な発展とは 5. 環境政策と政府の役割 6. 第二次世界大戦後の環境問題の変遷 7. 環境問題の国際化と環境政策の新たな展開 8. 経済政策からみる環境政策の手段 9. 環境政策の原則と指針 10. 11. 環境政策の手法 (1) (2) (規制的手法・経済的手法) 12. 地球温暖化問題と低炭素化社会を考える 13. 地球温暖化からみるCOP21の意義 14. 地球温暖化の長期的な目標と低炭素社会 15. 16. 沖縄経済と環境政策を論じる 17. 経済問題から環境問題へ 18. 沖縄の経済発展と環境 19. 沖縄経済のディレンマ 20. 沖縄経済発展と観光 21. 環境の経済価値 22. 環境の価値評価手段 23. 環境改善と支払意思額 24. 25. バッグの損害評価1. 2 26. 27. グッズの経済評価1. 2 28. 環境と沖縄の観光経済 29. 内発的発展による沖縄の経済発展 30. 31. 真の豊かさとテーゲー経済学序説1.2 32. 総括
	テキスト・参考文献・資料など 呉錫畢 (2008) 『環境・経済と真の豊かさ』、日本経済評論社。 松下和夫 (2007) 『環境政策のすすめ』、丸善。 呉錫畢 (1999) 『環境政策の経済分析』、 Nick Hanley, Jason F. Shogren and Ben White(2001), Introduction to Environmental Economics, Oxford
	学びの手立て 問題意識を高めるために、地域と関連する論文を逐次紹介しディベートする。
評価	知識や討論、出欠で評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 修士論文を書くための知識を深める。
-------	----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営情報システム特論	後期	木6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安里 肇	1年	asato@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>コンピュータのハード・ソフト面の急速な進展、インターネット利用環境の普及により、ユビキタスコンピューティング、クラウドコンピューティングなど新たな媒体を利用した様々なビジネスモデルが提案されている。本講義では、それらの最新の情報技術とそれを利用した経営情報システムおよびビジネスモデルを中心課題にして議論を進めていく。</p>	<p>初回講義時にテキストを選定し、受講者持ち回りで輪読していく。担当者のパートについて各回プレゼンを行い、その内容について受講者全員で討論していく形式をとるため、欠席は認めない。</p>
到達目標	経営情報システムに関する体系的、歴史的な知識を得て、その問題点や利点、今後の展開などを概説できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 担当割り当て	個別担当の資料作成&プレゼン準備
	2	企業経営と情報システム	個別担当の資料作成&プレゼン準備
	3	組織の管理と戦略	個別担当の資料作成&プレゼン準備
	4	ハードウェア・ソフトウェア	個別担当の資料作成&プレゼン準備
	5	データベース構築練習 (課題レポート)	課題レポート作成
	6	経営情報システム・意思決定支援システム	個別担当の資料作成&プレゼン準備
	7	戦略的情報システム	個別担当の資料作成&プレゼン準備
8	エンドユーザーコンピューティング	個別担当の資料作成&プレゼン準備	
9	オフィス情報システム	個別担当の資料作成&プレゼン準備	
10	情報システムの設計手法およびプログラミング技術	課題レポート作成	
11	情報システムの運営と管理	課題レポート作成	
12	応用ソフトウェアの新たな展開	個別担当の資料作成&プレゼン準備	
13	インターネット	課題レポート作成	
14	eビジネスの特徴と戦略	個別担当の資料作成&プレゼン準備	
15	最終試験 (論述式)	考察	
16	総括		
実践	テキスト・参考文献・資料など	開講時に指定する。	
学びの手立て	<p>将来の職業や自分の興味をベースにしてテキストの章を割り当てるため、自力で情報収集する能力、考える力、プレゼンテーションを行う力など総合的に身につけることができる。積極的に講義に参加する意欲を持って取り組んで欲しい。経営情報の知識、情報技術のスキル(プログラミング・データベース・ネットワーク)については受講時に確認する(必ず事前に問い合わせること)。専門性の高い講義のため注意が必要である。</p>		
評価	各回講義時のプレゼンテーション(課題レポート含む)50%、試験50%で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	社会で必要となる情報技術の知識を得て、企業等での情報機器の導入事例等を学び、修士論文や修了後のビジネスにおける問題解決および報告等の業務において的確に判断できるような能力を養成する。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済情報統計解析特殊研究Ⅰ	通年	火3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	兪 炳強	1年	yu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 近年、インターネットの普及、情報化の進展、統計的アプリケーションの普遍化に伴い、経済・産業情報・データを数量的かつ客観的に分析する能力が必要不可欠である。本特殊研究では、地域産業・経済に関わる統計データや調査データへの多用される統計解析手法の応用能力の向上をめざし、修士論文のフレームワークの構築を指導する。	メッセージ 統計データ分析に関心のある学生を歓迎します。
	到達目標 ①経済統計データや調査データの収集能力や分析能力の向上。②修士論文のフレームワークの構築。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1～4週 学術論文としての形式的・実質的要件に関する指導 第5～26週 統計解析手法の応用に関わる文献の輪読 第27～31週 各自の研究テーマ・課題に関連した研究報告・討論、修士論文の概要作成
	テキスト・参考文献・資料など 受講者個々の研究テーマなどに応じて、適宜・適時に紹介する。
	学びの手立て 研究テーマに関連する文献を積極的に入手し熟読することが望ましい。
	評価 平常点：50%、修士論文のフレームワークの構築：50%

学びの継続	次のステージ・関連科目 経済情報統計解析特殊研究Ⅱ
-------	------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済情報統計解析特殊研究Ⅱ	通年	火5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	俞 炳強	2年	yu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 近年、インターネットの普及、情報化の進展、統計的アプリケーションの普遍化に伴い、経済・産業情報・データを数量的かつ客観的に分析する能力が必要不可欠である。本特殊研究では、地域産業・経済に関わる統計データや調査データへの多用される統計解析手法の応用能力の向上をめざし、修士論文の作成を指導する。	メッセージ 統計データ分析に関心のある学生を歓迎します。
	到達目標 ①経済統計データや調査データの分析能力の向上。②修士論文の作成。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1～4週 受講者の修士論文概要に沿った文献の紹介・解説を行う。 第5～15週 受講者が輪番で研究報告・討論を行い、研究内容や分析方法などを検討する。 第16～18週 受講者が輪番で研究報告・討論を行い、修士論文の中間発表内容を検討する。 第19～26週 受講者が輪番で研究報告・討論を行い、修士論文の作成に取り組む。 第27～31週 修士論文の詳細な精査を行う
	テキスト・参考文献・資料など 受講者個々の研究テーマ等に応じて、適宜・適時に紹介する。
	学びの手立て 研究テーマに関連する文献を積極的に入手し熟読することが望ましい。
	評価 平常点：50%、修士論文の作成：50%

学びの継続	次のステージ・関連科目 就職後の社会人としての活躍、または進学。
-------	-------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済情報統計解析特論A	通年	火2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	兪 炳強	1年	yu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義のねらいは、経済統計データや調査データなどを用いた定量的な実証分析をおこなうための実用的な統計解析の知識を身につけることである。近年、インターネットの普及によって簡単に経済統計データの入手が可能となり、またSPSSなど統計解析用ソフトウェアを活用して経済統計データや調査データの分析技法を学ぶ。	メッセージ 統計データ分析に関心のある学生を歓迎します。
	到達目標 経済統計データや調査データの収集能力や分析能力の向上。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1週 オリエンテーション 第2～3週 SPSSの基本操作 第4～5週 統計解析の基礎 第6～7週 時系列データの基礎的分析 第8～9週 横断面データ（質的・数量的データ）の基礎的分析 第10～11週 統計的検定 第12～13週 回帰分析 第14～15週 非線形回帰分析 第16～17週 判別分析 第18～19週 主成分分析 第20～21週 因子分析 第22～23週 クラスタ分析 第24～25週 正準相関分析 第26～28週 数量化理論 第29～31週 総合演習
	テキスト・参考文献・資料など プリントまたはPDFファイルで配布します。参考文献についてはその都度紹介する。
	学びの手立て 授業時間外でソフトウェア操作の練習や学習した分析手法の実演習が望ましい。
	評価 平常点：50%、レポート：50%

学びの継続	次のステージ・関連科目 経済情報統計解析特殊研究Ⅰ・Ⅱ
-------	--------------------------------

※ポリシーとの関連性

広範な講義科目群より専門知識を習得すると共に複合知識を実社会において体现できる能力を身につける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	公企業特論	後期	水 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 了太	1年	研究室 (5629)、またはmurakamiあつとokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	世界同時不況のさなか、企業や組織に関わる形態転換の動きが散見される。新自由主義的経済政策による公企業民営化や規制緩和が行われてきた一方、金融機関や公益事業が様々な理由によって経営危機に陥り、一時国有化されるか否かという議論も見受けられる。このような現象を、わが国のみならず諸外国の事例も比較対象としつつ、企業や組織の形態転換の今日的意義を理解していきたい。	修士論文を意識した展開を図りたい。
到達目標	1) 修士論文の執筆に対する知見を提供できる。 2) 経営組織や経営戦略などが理解できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（講義の目的、達成目標の確認）	配布物の精読
	2	テキストの選別、紹介、報告割り当て	テキスト精読
	3	報告・ディスカッション①	論点整理およびレポート作成
	4	報告・ディスカッション②	論点整理およびレポート作成
	5	報告・ディスカッション③	論点整理およびレポート作成
	6	報告・ディスカッション④	論点整理およびレポート作成
	7	報告・ディスカッション⑤	論点整理およびレポート作成
8	報告・ディスカッション⑥	論点整理およびレポート作成	
9	報告・ディスカッション⑦	論点整理およびレポート作成	
10	報告・ディスカッション⑧	論点整理およびレポート作成	
11	報告・ディスカッション⑨	論点整理およびレポート作成	
12	報告・ディスカッション⑩	論点整理およびレポート作成	
13	報告・ディスカッション⑪	論点整理およびレポート作成	
14	報告・ディスカッション⑫	論点整理およびレポート作成	
15	まとめ	作成資料の読み返し	
16	予備日		
テキスト・参考文献・資料など	テキスト・参考文献・資料など 溝端佐登史・小西豊・出見世信之『市場経済の多様化と経営学』ミネルヴァ書房、2010年。 日本大学商学部「公と私」研究会編『公の中の私、私の中の公』日本評論社、2013年。 村上了太「日本専売公社民営化の今日的意義：タバコ事業を中心とした経営形態転換論争と経営の自主性」『同志社商学』第69巻第5号、2018年3月。 講義中に適宜紹介する。		
学びの手立て	文献研究やレポートの作成に関しては、本講義以外の時間帯でも相談を受け付ける。		
評価	受講意欲、報告内容やディスカッションにおける水準などを総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 地域社会経済システム特論、地域社会経済システム特殊研究Ⅰ、地域社会経済システム特殊研究Ⅱ
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	産業組織特殊研究 I	通年	水 7	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 和宏	1年	kazuhirom@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 産業組織論に関する基礎的な知識ならびに論文作成に必要な知識を前期で習得する。後期では修士論文に係わる特定課題に関する文献について報告し、議論を通じて修士論文のテーマについて絞り込んでいく作業を行っていく。	メッセージ 論文作成のスキルを磨くと同時に日頃から新聞等を通じて情報収集を行いテーマ設定のための問題意識を涵養してください。
	到達目標 産業組織論に関する基礎知識の習得を通じて修士論文のテーマ設定と論文作成の準備を行う。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：講義の進め方	シラバスを事前に確認
	2	修士論文の作成方法について	論文作成方法について確認する
	3	産業組織論の基本文献の説明	論文作成方法について確認する
	4	基本文献についての報告・討論	文献を精読し要点をまとめる
	5	基本文献についての報告・討論	文献を精読し要点をまとめる
	6	基本文献についての報告・討論	文献を精読し要点をまとめる
	7	基本文献についての報告・討論	文献を精読し要点をまとめる
	8	基本文献についての報告・討論	文献を精読し要点をまとめる
	9	基本文献についての報告・討論	文献を精読し要点をまとめる
	10	基本文献についての報告・討論	文献を精読し要点をまとめる
	11	基本文献についての報告・討論	文献を精読し要点をまとめる
	12	基本文献についての報告・討論	文献を精読し要点をまとめる
	13	基本文献についての報告・討論	文献を精読し要点をまとめる
	14	基本文献についての報告・討論	文献を精読し要点をまとめる
	15	基本文献についての報告・討論	文献を精読し要点をまとめる
	16	前期の総括	前期の課題について考えておく
	17	後期日程のガイダンス	事前にシラバスを確認しておく
	18	修士論文に関する特定課題の選定	修士論文のテーマ設定
	19	研究計画書の作成・指導	計画書案の作成
	20	研究計画書の作成・指導	計画書案の修正
	21	課題報告・討論	修士論文に関する文献の精読
	22	課題報告・討論	修士論文に関する文献の精読
	23	課題報告・討論	修士論文に関する文献の精読
	24	課題報告・討論	修士論文に関する文献の精読
	25	課題報告・討論	修士論文に関する文献の精読
	26	課題報告・討論	修士論文に関する文献の精読
	27	課題報告・討論	修士論文に関する文献の精読
	28	課題報告・討論	修士論文に関する文献の精読
	29	課題報告・討論	修士論文に関する文献の精読
30	課題報告に関するレポート提出	修士論文に関する文献の精読	
31	総括	ここまでの課題について考える	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 特になし。 適宜、紹介する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 報告者はきちんと事前に報告準備を行うようにしてください。議論には全員が参加するように。</p>
	<p>評価 授業参加度（30％）、レポート、報告、質疑応答等（70％）により総合的に評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 産業組織特殊研究Ⅱ</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	産業組織特殊研究Ⅱ	通年	水5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 和宏	2年	kazuhirom@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 修士論文を完成させる。そのための指導を行う。	メッセージ 修士論文作成のスキルは、現代の情報が氾濫する正解のない社会において非常に重要な役に立つスキルになります。ベストを尽くすようにしてください。
	到達目標 修士論文を完成させる	

学びの準備	ねらい 修士論文を完成させる。そのための指導を行う。	メッセージ 修士論文作成のスキルは、現代の情報が氾濫する正解のない社会において非常に重要な役に立つスキルになります。ベストを尽くすようにしてください。
	到達目標 修士論文を完成させる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 毎回、修士論文の内容について発表してもらおう。その後、議論し、必要な指導を行う。 時間外学習の内容：修士論文作成と報告の準備をすること
	テキスト・参考文献・資料など 特になし 特になし

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 特になし 特になし
	学びの手立て 議論に積極的に参加するようにしてください。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 特になし 特になし
	学びの手立て 議論に積極的に参加するようにしてください。

学びの実践	評価 授業参加度（30%）、報告・発表・議論等の内容（70%）から総合的に評価する

学びの継続	次のステージ・関連科目 実社会での実践あるいは大学院博士課程への進学
-------	---------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	産業組織特論	通年	水6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 和宏	1年	kazuhirom@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 産業組織論は、産業内構造と企業行動・パフォーマンスとの関係、政府の規制・競争政策を分析対象とする現実的かつエキサイティングな学問分野である。産業組織論を学ぶことにより、就職活動で業界研究をする際に、各業界についてより深い洞察を得ることが期待できる。本講義では、産業組織論に関する基礎的な考え方を理解できるようにすることを目標とする。	メッセージ 産業組織論は実社会でも役に立つ学問です。この講義で分析手法等を身につけるようにしてください。
	到達目標 産業組織論の基礎について理解できる	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション：講義内容の紹介	
	2	産業組織論の2つのアプローチ	テキスト、配布資料等の自習
	3	企業の理論 (1)	テキスト、配布資料等の自習
	4	企業の理論 (2)	テキスト、配布資料等の自習
	5	企業と費用	テキスト、配布資料等の自習
	6	完全競争と独占 (1)	テキスト、配布資料等の自習
	7	完全競争と独占 (2)	テキスト、配布資料等の自習
	8	市場支配力と集中度 (1)	テキスト、配布資料等の自習
	9	市場支配力と集中度 (2)	テキスト、配布資料等の自習
	10	参入と退出 (1)	テキスト、配布資料等の自習
	11	参入と退出 (2)	テキスト、配布資料等の自習
	12	合併と企業結合規制 (1)	テキスト、配布資料等の自習
	13	合併と企業結合規制 (2)	テキスト、配布資料等の自習
	14	プライスリーダーシップモデル (1)	テキスト、配布資料等の自習
	15	プライスリーダーシップモデル (2)	テキスト、配布資料等の自習
	16	コンテストブル市場理論 (1)	テキスト、配布資料等の自習
	17	コンテストブル市場理論 (2)	テキスト、配布資料等の自習
	18	ネットワーク経済学 (1)	テキスト、配布資料等の自習
	19	ネットワーク経済学 (2)	テキスト、配布資料等の自習
	20	寡占の理論 (1)	テキスト、配布資料等の自習
	21	寡占の理論 (2)	テキスト、配布資料等の自習
	22	寡占の理論 (3)	テキスト、配布資料等の自習
	23	共謀 (1)	テキスト、配布資料等の自習
	24	共謀 (2)	テキスト、配布資料等の自習
	25	カルテルと合併 (1)	テキスト、配布資料等の自習
	26	カルテルと合併 (2)	テキスト、配布資料等の自習
	27	製品差別化と広告	テキスト、配布資料等の自習
	28	技術変化と研究開発 (1)	テキスト、配布資料等の自習
	29	技術変化と研究開発 (2)	テキスト、配布資料等の自習
30	垂直統合と垂直的制限	テキスト、配布資料等の自習	
31	総括		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 特に指定しない。 適宜、紹介する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て テキストを丹念に読み、理解できるよう務めてください。</p>
	<p>評価 授業参加度（30%）、発言内容、小テスト等（70%）で総合的に評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 産業組織特殊研究Ⅰ・Ⅱ</p>

※ポリシーとの関連性 学ぶ姿勢と学ぶ力を付ける。自分で考えて、自ら動いていく力を付ける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	商学特論	後期	水6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	1年	講義終了後に教室で受け付ける。	

学びの準備	ねらい この授業を通して、基本的な小売業の成り立ちと現在の状況を知る。そして今後の地域小売業がいかんして発展していけるかをマーケティングを通して考えていく。小売業に限らず幅広くマーケティングを学ぶ。	メッセージ 特論科目を単なる単位・学ぶべきものとするのではなく、演習を通してその科目の楽しさ、理論の重要性、社会への影響に気づくことが大切である。
	到達目標 1. マーケティングの基本を知る。 2. マーケティングと小売業の基本理論を学ぶ。 3. 地域と小売業の関係性を知る。 4. 小売業の発展に対して基本的提言できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） ・課題図書を読み、内容をまとめてクラスでプレゼンテーションを行う。プレゼンテーション数はこのクラスの受講生数で決定する。 ・県内の小売業の社長あるいは役員レベルから沖縄県の小売現状及びその企業の状況についてインタビューを行い、それを報告する。
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：授業にて指定する。また、必要に応じて授業の中でプリントを配布する。参考文献も必要な時に発表する。
	学びの手立て 履修の心構え： ①出席・授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る、④他の院生に迷惑を掛けない。 学びを深めるために： ①マーケティングと小売業の関係を知る、②議論に積極的に参加する、③ビジネス関連の専門誌を読む。
	評価 評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①出席、②プレゼンテーション、③レポート、④授業での態度、⑤課題提出物。

学びの継続	次のステージ・関連科目 マーケティングに関連した書籍を読むこと。一般教養もしっかりと学ぶこと。
-------	--

科目基本情報	科目名 情報資源管理特論	期別	曜日・時限	単位
		前期	火 4	2
	担当者 又吉 光邦	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ 毎回のテーマ毎に適切な論文等と課題を与える。各自は、与えられた資料を学習し、課題を毎回の授業で提出、およびその内容を報告してもらう。報告においては、パワーポイントによるプレゼンテーションを基本とする。
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス
	2	情報資源管理の概念と意義
	3	情報資源管理と組織・運営について
	4	情報管理技術と情報通信技術の進展と情報資源管理の変遷 I
	5	情報管理技術と情報通信技術の進展と情報資源管理の変遷 II
	6	情報資源の収集、管理、運用、活用について
	7	情報資源のゲーム理論による活用と利益獲得について I
	8	情報資源のゲーム理論による活用と利益獲得について II
学びの実践	9	最適化手法を用いた情報資源や人的資源の配置、管理、活用について I
	10	最適化手法を用いた情報資源や人的資源の配置、管理、活用について II
	11	情報資源管理としてのセキュリティ手法(システム開発)について
	12	情報資源管理としてのセキュリティ手法(暗号)について
	13	情報資源管理の先進事例研究(1)
	14	情報資源管理の先進事例研究(2)
	15	まとめ(情報資源管理の今後の役割と課題)
	16	テスト
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 主として、ポータルにアップロードされたパワーポイントやPDFファイル。	
学びの実践	学びの手立て	
学びの実践	評価 試験(80%)。 レポート(10%) プレゼンテーション(10%)。	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人的資源管理特論	後期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	1年	kiwahashiアットまーく okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では、まず学部の講義内容である人的資源管理の理論を学び、この理論体系を、現象をとらえる枠組として共有する。つぎにその枠組をもとに事例を読み解く。そして、そこでの問題と課題を、議論を通じて見いだしていく。	メッセージ 人的資源管理制度は、組織の戦略や目標を達成するために、従業員たちがよりよく働けるよう設計される。しかし一方でヒトの欲求は多様であり、状況に応じて変わっていく。他方で環境の変動にあわせて革新が求められるにもかかわらず、組織は簡単に変わらない。ここにヒトを管理するうえでの難しさが存在する。
	到達目標 修士論文執筆に向けて、理論と事例の扱い方に慣れること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	はじめに： 概要の説明と報告順の割り振り	報告レジユメの作成
	2	企業のマネジメントとは	報告レジユメの作成
	3	雇用構造のマネジメント	報告レジユメの作成
	4	組織と個人、経営の働きかけ	報告レジユメの作成
	5	組織構造	報告レジユメの作成
	6	インセンティブシステム	報告レジユメの作成
	7	計画とコントロール	報告レジユメの作成
	8	経営理念と組織文化	報告レジユメの作成
9	リーダーシップ	報告レジユメの作成	
10	人の配置、育成、選抜	報告レジユメの作成	
11	矛盾、学習、心理的エネルギーのダイナミクス	報告レジユメの作成	
12	パラダイム転換のマネジメント	報告レジユメの作成	
13	企業成長のパラドックス	報告レジユメの作成	
14	場のマネジメント	報告レジユメの作成	
15	企業という生き物、経営者の役割	学習内容のまとめ	
16	まとめ	学習成果の振り返り	
	テキスト・参考文献・資料など 伊丹敬之・加護野忠男（2003）『ゼミナール経営学入門 第3版』日本経済新聞出版社。		
	学びの手立て 授業では毎回報告者を決めておき、報告者はレジユメを準備して報告する。授業は、報告、解説、議論の順で進める。		
	評価 特論への貢献度（討論での積極的な発言など）50%、各回報告レジユメの完成度50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 商学系の各科目。
-------	-------------------------

※ポリシーとの関連性 学ぶ姿勢と学ぶ力を付ける。自分で考えて、自ら動いていく力を付ける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域小売業特論	前期	水6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	1年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、地域小売業の成り立ちと現在の状況を知る。そして今後の地域小売業がいかんして発展していけるかをマーケティングを通して考えていく。	メッセージ 特論科目を単なる単位・学ぶべきものとするのではなく、演習を通してその科目の楽しさ、理論の重要性、社会への影響に気づくことが大切である。
	到達目標 1. 地域小売業の概要を知る。 2. マーケティングと小売業の基本理論を学ぶ。 3. 地域と小売業の関係性を知る。 4. 小売業の発展に対して基本的提言ができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 課題図書を読み、内容をまとめてクラスでプレゼンテーションを行う。県内の小売業の社長あるいは役員レベルから沖縄県の小売現状及びその企業の状況についてインタビューを行い、それを報告する。
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：授業にて指定する。また、必要に応じて授業の中でプリントを配布する。参考文献も必要な時に発表する。
	学びの手立て 履修の心構え： ①出席・授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る、④他の学生に迷惑を掛けない。 学びを深めるために： ①マーケティングと小売業の関係を知る、②議論に積極的に参加する、③日経MJを読む。
	評価 評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①出席、②プレゼンテーション、③レポート、④授業での態度、⑤課題提出物。

学びの継続	次のステージ・関連科目 ビジネス関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。一般教養科目をしっかりと学ぶこと。
-------	--

※ポリシーとの関連性

アドミッション・ポリシーより各領域の専門性の深化と併せて広い視野に立った思考能力を有する専門的職業人を養成するため。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域産業セミナー	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	オムニバス(宮森正樹、兪炳強、宮城和宏、又吉光邦、比嘉正茂)	1年	各回の担当講師に連絡する	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	地域産業セミナーは、専門性と複合的知識を実社会において体現し、地域産業振興の原動力となる高度の専門的職業人の養成と、商学・経済学の分野の有機的連携に基づく研究活動の促進を目的としており、商学系と経済学系の内容を加味した学際的な講義科目としてオムニバス集中講義方式で開設されている。	修士論文の工程や研究手法を最初に学ぶこと。
到達目標	修士課程における学習・研究の進め方について学習する。 商学系と経済学系の幅広い地域を学ぶことにより、専門領域における学習方法を理解する。	

学びの実践	学びのヒント																																																																																																
	<p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <table border="1"> <tr><td>第01回</td><td>8月 5日</td><td>月曜日</td><td>4限</td><td>比嘉正茂</td><td>ガイダンス、研究の進め方</td></tr> <tr><td>第02回</td><td>8月 5日</td><td>月曜日</td><td>5限</td><td>宮森正樹</td><td>商学系 地域小売業特論</td></tr> <tr><td>第03回</td><td>8月 5日</td><td>月曜日</td><td>6限</td><td>宮森正樹</td><td>商学系 地域小売業特論</td></tr> <tr><td>第04回</td><td>8月 5日</td><td>月曜日</td><td>7限</td><td>宮森正樹</td><td>商学系 地域小売業特論</td></tr> <tr><td>第05回</td><td>8月 6日</td><td>火曜日</td><td>5限</td><td>兪炳強</td><td>経済系 経済情報統計解析特論</td></tr> <tr><td>第06回</td><td>8月 6日</td><td>火曜日</td><td>6限</td><td>兪炳強</td><td>経済系 経済情報統計解析特論</td></tr> <tr><td>第07回</td><td>8月 6日</td><td>火曜日</td><td>7限</td><td>兪炳強</td><td>経済系 経済情報統計解析特論</td></tr> <tr><td>第08回</td><td>8月 7日</td><td>水曜日</td><td>5限</td><td>宮城和宏</td><td>経済系 産業組織特論</td></tr> <tr><td>第09回</td><td>8月 7日</td><td>水曜日</td><td>6限</td><td>宮城和宏</td><td>経済系 産業組織特論</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>8月 7日</td><td>水曜日</td><td>7限</td><td>宮城和宏</td><td>経済系 産業組織特論</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>8月 8日</td><td>木曜日</td><td>5限</td><td>又吉光邦</td><td>商学系 情報資源管理特論</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>8月 8日</td><td>木曜日</td><td>6限</td><td>又吉光邦</td><td>商学系 情報資源管理特論</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>8月 8日</td><td>木曜日</td><td>7限</td><td>又吉光邦</td><td>商学系 情報資源管理特論</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>8月 9日</td><td>金曜日</td><td>5限</td><td>比嘉正茂</td><td>経済系 応用マクロ経済学特論</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>8月 9日</td><td>金曜日</td><td>6限</td><td>比嘉正茂</td><td>経済系 応用マクロ経済学特論</td></tr> <tr><td>第16回</td><td>8月 9日</td><td>金曜日</td><td>7限</td><td>比嘉正茂</td><td>経済系 応用マクロ経済学特論</td></tr> </table>	第01回	8月 5日	月曜日	4限	比嘉正茂	ガイダンス、研究の進め方	第02回	8月 5日	月曜日	5限	宮森正樹	商学系 地域小売業特論	第03回	8月 5日	月曜日	6限	宮森正樹	商学系 地域小売業特論	第04回	8月 5日	月曜日	7限	宮森正樹	商学系 地域小売業特論	第05回	8月 6日	火曜日	5限	兪炳強	経済系 経済情報統計解析特論	第06回	8月 6日	火曜日	6限	兪炳強	経済系 経済情報統計解析特論	第07回	8月 6日	火曜日	7限	兪炳強	経済系 経済情報統計解析特論	第08回	8月 7日	水曜日	5限	宮城和宏	経済系 産業組織特論	第09回	8月 7日	水曜日	6限	宮城和宏	経済系 産業組織特論	第10回	8月 7日	水曜日	7限	宮城和宏	経済系 産業組織特論	第11回	8月 8日	木曜日	5限	又吉光邦	商学系 情報資源管理特論	第12回	8月 8日	木曜日	6限	又吉光邦	商学系 情報資源管理特論	第13回	8月 8日	木曜日	7限	又吉光邦	商学系 情報資源管理特論	第14回	8月 9日	金曜日	5限	比嘉正茂	経済系 応用マクロ経済学特論	第15回	8月 9日	金曜日	6限	比嘉正茂	経済系 応用マクロ経済学特論	第16回	8月 9日	金曜日	7限	比嘉正茂	経済系 応用マクロ経済学特論
	第01回	8月 5日	月曜日	4限	比嘉正茂	ガイダンス、研究の進め方																																																																																											
	第02回	8月 5日	月曜日	5限	宮森正樹	商学系 地域小売業特論																																																																																											
第03回	8月 5日	月曜日	6限	宮森正樹	商学系 地域小売業特論																																																																																												
第04回	8月 5日	月曜日	7限	宮森正樹	商学系 地域小売業特論																																																																																												
第05回	8月 6日	火曜日	5限	兪炳強	経済系 経済情報統計解析特論																																																																																												
第06回	8月 6日	火曜日	6限	兪炳強	経済系 経済情報統計解析特論																																																																																												
第07回	8月 6日	火曜日	7限	兪炳強	経済系 経済情報統計解析特論																																																																																												
第08回	8月 7日	水曜日	5限	宮城和宏	経済系 産業組織特論																																																																																												
第09回	8月 7日	水曜日	6限	宮城和宏	経済系 産業組織特論																																																																																												
第10回	8月 7日	水曜日	7限	宮城和宏	経済系 産業組織特論																																																																																												
第11回	8月 8日	木曜日	5限	又吉光邦	商学系 情報資源管理特論																																																																																												
第12回	8月 8日	木曜日	6限	又吉光邦	商学系 情報資源管理特論																																																																																												
第13回	8月 8日	木曜日	7限	又吉光邦	商学系 情報資源管理特論																																																																																												
第14回	8月 9日	金曜日	5限	比嘉正茂	経済系 応用マクロ経済学特論																																																																																												
第15回	8月 9日	金曜日	6限	比嘉正茂	経済系 応用マクロ経済学特論																																																																																												
第16回	8月 9日	金曜日	7限	比嘉正茂	経済系 応用マクロ経済学特論																																																																																												
テキスト・参考文献・資料など																																																																																																	
<p>テキストの指定は特にありません。 各担当教員から参考文献について通知します</p>																																																																																																	
<p>学びの手立て</p> <p>1年次の必修科目として設定されていることにより、学生が相互に啓発し、学習・研究を深めてゆくことができる。</p>																																																																																																	
<p>評価</p> <p>平常点、課題の提出等により総合的に評価する</p>																																																																																																	

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>上位科目：各領域の特殊研究</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域社会経済システム特殊研究 I	通年	水 7	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 了太	1年	研究室 (5629)、またはmurakamiあつとokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本特殊研究は、まず1)ミクロ経済学、企業経済学および経営学の基礎知識の確認、2)地域における経済活動から生ずる様々な課題の発見、3)組織の経済性と社会性のありかた、という順序で構成されている。とりわけ社会課題を解決するための手法として社会的企業の役割がにわかに注目されていることを理解していく。	原則として次年度の完成を目標にする修士論文とは、いくつもの紆余曲折を経て、初めて完成に至るものである。そのため、幾多のプロセスにおいても研究の深化はもちろんのこと、多様な言及や批判をも受け入れるような姿勢も育成する。
到達目標	1)修士論文を構築するための前提条件ができています。 2)修士課程修了後のビジョンが明確になっている。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>第1回 オリエンテーション (テキストの選定、講読方法などの打ち合わせ) 第2回～第6回 テキスト講読・ディスカッション (経済学および経営学などを主要テーマとする) 第7回～第11回 テキスト講読・ディスカッション (地域における経済活動から生ずる様々な課題を主要テーマとする) 第12回～第16回 テキスト講読・ディスカッション (社会的企業をはじめとする組織の経済性と社会性を主要テーマとする) 第17回～第30回 修士論文の作成に向けた課題設定、報告およびディスカッション 第31回 まとめ</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>溝端・小西・出見世編著『市場経済の多様化と経営学』ミネルヴァ書房、2010年。 日本大学商学部「公と私」研究会編『公の中の私、私の中の公』日本評論社、2013年。 馬頭忠治『アソシエーションとマネジメント』ラゲーナ出版、2013年。 橋本理『非営利組織研究の基本視角』法律文化社、2013年。 村上了太「日本専売公社民営化の今日的意義：タバコ事業を中心とした経営形態転換論争と経営の自主性」『同志社商学』第69巻第5号、2018年3月。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>課題の設定、章節の構築、タイトルとの整合性など修士論文の構想・執筆に関しては、演習の時間帯以外でも作成・指導にあたる。そのため、正課外においても常に執筆を意識すること。</p>
評価	研究意欲((50点)、課題報告(50点)などを総合的に判断する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 地域社会経済システム特殊研究II、地域社会経済システム特論、公企業論
-------	---

※ポリシーとの関連性

修士論文を完成し、自己の研究を専門分野の中に位置づけ、研究の成果と意義について客観的に把握する能力を身につける。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域社会経済システム特殊研究Ⅱ	通年	火6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 了太	2年	研究室 (5629)、またはmurakamiあつとokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習は、地域社会経済システム特殊研究Ⅰをはじめ、1年次に習得した諸科目の受講実績を基に、修士論文を完成させることに主眼を置いている。修士論文は、特殊研究担当者への報告やディスカッションのみならず、修士論文の中間報告会への出席や参加者との質疑応答などのプロセスも経る。また、研究成果を外部に公開することを前提とする。</p>	<p>修士論文とは、いくつもの紆余曲折を経て、初めて完成に至るものである。そのため、幾多のプロセスにおいても研究の深化はもちろんのこと、多様な言及や批判をも受け入れるような姿勢も育成する。</p>
到達目標	<p>1) 修士論文が幾多の批判に耐えられる内容になっていること。 2) 1)の内容と形式を伴って、修士号の学位授与に値するまでの学術水準に到達させること。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>第1回 オリエンテーション (テーマ設定、参考文献の選定) 第2回～第3回 報告・ディスカッション (課題の設定、引用文献の収集状況の報告も兼ねる) 第4回～第10回 報告・ディスカッション (進捗状況の報告を中心に) 第11回～第20回 報告・ディスカッション (修士論文の作成のための加除修正) 第21回～第30回 報告・ディスカッション (修士論文の提出までの編集) 第31回 まとめ (修士論文提出日を優先とする)</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>各自の修士論文のテーマに沿った文献 (引用のための図書や論文) を第1回から比較的早期の段階で選定する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>課題の設定、章節の構築、タイトルとの整合性など修士論文の作成・提出に関しては、演習の時間帯以外でも作成・指導にあたる。そのため、正課外においても常に執筆を意識すること。</p>
	<p>評価</p> <p>研究意欲 (50点)、課題報告 (50点) などを総合的に判断する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>大学院後期博士課程進学、営利組織・非営利組織への就職、国家・地方公務員および教職員への登用など。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域社会経済システム特論	通年	水6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 了太	1年	研究室 (5629)、またはmurakamiあつとokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本特論は、企業経済学および経営学を基礎とした講義である。学部におけるミクロ経済学や経営学の基礎知識を所与の条件とし、企業の行動原理を理解する。また企業に関連する組織の社会性、経済性そして持続性についても視野を広げる。文献講読やディスカッションを通して、基礎知識を専門知識へと深化させる。	メッセージ 修士論文を意識した展開を図りたい。
	到達目標 1) 社会や経済の仕組みが理解できる。 2) 解決すべき社会的課題が発見できる。 3) 2)を解決する手立てを考えることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 第1回 オリエンテーション (テキスト他の検討も含む) 第2回～第10回 テキスト講読・ディスカッション (社会課題を主要テーマとする) 第11回～第19回 テキスト講読・ディスカッション (経営学を主要テーマとする) 第20回～第28回 テキスト講読・ディスカッション (社会的企業を主要テーマとする) 第29回～第31回 論点整理・まとめ
	テキスト・参考文献・資料など ロバート・B・ライシュ『暴走する資本主義』(雨宮・今井訳) 東洋経済新報社、2008年。 ムハマド・ユヌス『貧困のない世界を創る』(猪熊訳) 早川書房、第5版、2009年。 頭川博『資本と貧困』八潮社、2010年。 ピパリー・シュワルツ(藤崎香里訳)『静かなるイノベーション』英治出版、2013年。 村上了太「日本専売公社民営化の今日的意義：タバコ事業を中心とした経営形態転換論争と経営の自主性」『同志社商学』第69巻第5号、2018年3月。
	学びの手立て 文献研究やレポートの作成に関しては、本講義以外の時間帯でも相談を受け付ける。
	評価 研究意欲 (50点)、課題報告 (50点) などを総合的に判断する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 地域社会経済システム特殊研究Ⅰ、地域社会経済システム特殊研究Ⅱ、公企業特論
-------	--

※ポリシーとの関連性

産業及び経済に関する諸課題に対する問題発見力、分析力を高めるための基本を学びます。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地方財政特論	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	1年	授業後に教室で受けます。それ以外は、研究室(5号館5536)で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>公共部門(国、地方公共団体)の役割は、民間部門(家計、企業)が活動する枠組み(法律、制度、規制など)を整え、また民間企業が供給することが困難な公共サービス(社会資本、教育、福祉など)を提供することにある。住民に身近な公共サービスを供給する地方公共団体(県、市町村)の役割が高まっており、沖縄県の財政、地域振興について理解することが重要である。</p> <p>到達目標</p> <p>①地方財政の基本的なしくみを理解できる ②国と都道府県・市町村の財政関係を理解できる ③沖縄県の財政の実情について理解する</p>	<p>身近な市町村や沖縄県の財政、地域振興について理解を深めましょう。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	地方財政とは	参考文献①PP1-10を読む
	2	国と地方の役割	参考文献①PP1-10を読む
	3	地方歳入の概要	参考文献①PP42-53を読む
	4	地方税、地方交付税、国庫支出金	参考文献①PP42-53を読む
	5	地方歳出の概要	参考文献①PP31-40を読む
	6	目的別歳出と性質別歳出	参考文献①PP31-40を読む
	7	地方分権の動向①	配布資料を復習する
8	地方分権の動向②	配布資料を復習する	
9	地方分権、地域主権改革の動向③	配布資料を復習する	
10	沖縄県の財政①	参考文献①PP105-120を読む	
11	沖縄県の財政②	参考文献①PP105-120を読む	
12	沖縄県の財政③	参考文献①PP122-137を読む	
13	地域振興と沖縄振興計画①	沖縄県HPの関連資料を読む	
14	地域振興と沖縄振興計画②	沖縄県HPの関連資料を読む	
15	地域振興と沖縄振興計画③	内閣府HP関連資料を読む	
16	講義の総括	講義の総復習をする	
実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>参考文献は以下の通りです。講義の初めの時間に説明します。</p> <p>①池宮城秀正編著『国と沖縄県の財政関係』 ②林良嗣著『地方財政』有斐閣ブックス ③総務省、『地方財政白書』</p>		
	<p>学びの手立て</p> <p>制度を調べる場合は、比較的新しい文献を参考にしてください。また、地方財政を所管する総務省のHP、内閣府HP、都道府県・市町村のHP、新聞報道などが実情を知るのに有用です。</p>		
	<p>評価</p> <p>授業参加度40%、授業における報告30%、課題提出30%の割合で評価します。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	地域資源経済特論、沖縄経済特論、地域発展特論

※ポリシーとの関連性 将来、海外でのベンチャー企業を展開しうる理論の習得を目指す。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	比較経営特殊研究Ⅰ	通年	土3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	1年	講義の前後あるいは学内メールにて問い合わせること。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習においては、ひとまず技術革新下における日本的経営の組織、雇用制度の歴史的な特質とその功罪および日本的経営の地域への移植の可能性を検討することからはじめ、それと対比した形で沖縄の企業経営組織や雇用制度の特色とその問題点を、日本的経営特殊研究の一環としてクローズアップさせる。なお、地域の人的資源開発を念頭におきながら、日本的経営の歴史的な特質からみた沖縄に	国際経営に関する論文作成を通して、問題解決能力を習得することが重要である。
到達目標	修士論文の作成による論理構成能力の習得を目指す。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	国際的な企業における経営組織Ⅰ	関連図書のリスト作成Ⅰ
	2	国際的な企業における経営組織Ⅱ	関連図書のリスト作成Ⅱ
	3	国際的な企業における経営理念Ⅰ	関連図書の朗読Ⅰ
	4	国際的な企業における経営理念Ⅱ	関連図書の朗読Ⅱ
	5	イギリスにおける企業経営組織Ⅰ	関連図書の朗読Ⅲ
	6	イギリスにおける企業経営組織Ⅱ	企業者活動と文化構造Ⅰ
	7	アメリカの経営組織Ⅰ	企業者活動と文化構造Ⅱ
	8	アメリカの経営組織Ⅱ	企業者活動と文化構造Ⅲ
	9	日本の経営組織Ⅰ	企業経営構想力Ⅰ
	10	日本の経営組織Ⅱ	企業経営構想力Ⅱ
	11	企業者活動と経済発展Ⅰ	経営戦略Ⅰ
	12	企業者活動と経済発展Ⅱ	経営戦略Ⅱ
	13	経営理念の国際比較Ⅰ	経営戦略Ⅲ
14	経営理念の国際比較Ⅱ	日本的労務管理方式Ⅰ	
15	能力主義管理の国際比較Ⅰ	日本的労務管理方式Ⅱ	
16	能力主義管理の国際比較Ⅱ	日本企業の賃金構造	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	佐久本 朝一著『技術革新と日本型企业社会』国際経営研究所 教科書 技術革新下の労働と日本型企业社会 INNOVATION AND THE JAPANESE STYLE OF BUSINESS SOCIETY 著 者 佐久本朝一 発行所 中央経済社		
	学びの手立て		
	講義時間外での専門図書や資料の収集を初年度でほぼ完了することが望ましい。		
	評価		
	報告書や論文の提出（50点）および講義時間での教員の議論の内容（25点）や研究発表（25点）による。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 比較経営特論
-------	-----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	比較経営特殊研究Ⅱ	通年	土4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	2年	可能な限り演習時間で問い合わせることが望ましい。	

学びの準備	ねらい 比較経営特殊研究で選定したテーマについて指導し修士論文を作成する。	メッセージ 修士論文の作成を通して論理構成能力の育成を目指す。
	到達目標 国際経営に関する修士論文の作成による論理構成能力の育成	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	国際経営に関する基礎知識の習得	
	2	修士論文に関する関連図書の収集	
	3	修士論文における各章の要約を発表する。	
	4	修士論文のレジユメの提出と点検	
	5	国際経営に関する基礎知識の習得	
	6	修士論文に関する関連図書の収集	
	7	修士論文のレジユメの提出	
	8	修士論文のレジユメの点検	
9	修士論文における各章の要約Ⅰ。		
10	修士論文における各章の要約Ⅱ		
11	修士論文における各章の要約Ⅲ		
12	修士論文のレジユメの点検Ⅰ		
13	修士論文のレジユメの点検Ⅱ		
14	修士論文のの提出と点検Ⅰ		
15	修士論文のの提出と点検Ⅱ		
16	修士論文のの提出		
	テキスト・参考文献・資料など 1佐久本朝一「技術革新下の日本型企業社会」ユージン伝株式会社 2佐久本朝一「日本企業と過労シンドローム」中央経済社		
	学びの手立て 図書館での資料や関連図書を収集し、その要約を指導教員に報告する。		
	評価 講義時間での教員との議論や報告書、論文の提出による。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 比較経営特論
-------	-----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	比較経営特論	通年	土2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	1年	講義時間終了後が望ましい。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	経営学や経営組織論の一般的な学説および古典的な理論を概説した上で、それをより特化した日本的経営論を展開する。というのも、本特論の意図が沖縄の企業経営を集団主義的な日本的経営の中に位置づけて、日本的経営におけるメリットを、ミクロ的な地域に移植しようとするところにあるからである。具体的には、その代表的な雇用管理制度、いわゆる日本的経営の三種の神器としての長期的雇用	比較経営に関する専門的な論文を作成することで、国際経営に関する知識を学ぶ。
到達目標		

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	経済発展と企業者活動 I	関連図書のリスト作成 I
	2	経済発展と企業者活動 II	修士論文の構想 I
	3	日本型雇用システムの特質 I	修士論文の構想 II
	4	日本型雇用システムの特質 II	関連図書の朗読 I
	5	日本型雇用システムの特質 III	関連図書の朗読 II
	6	経営理念の国際比較 I	日本の経営理念 I
	7	経営理念の国際比較 II	日本の経営理念 II
8	欧米と日本の経営組織の比較 I	経営理念の国際比較 I	
9	欧米と日本の経営組織の比較 II	経営理念の国際比較 II	
10	アジア型経営組織と日本的経営 I	日本的経営と国際化 I	
11	アジア型経営組織と日本的経営 II	日本的経営と国際化 II	
12	沖縄の経営組織の特質 I	沖縄における優良企業の調査 I	
13	沖縄の経営組織の特質 II	沖縄における優良企業の調査 II	
14	修士論文の構想 I	論文構想の発表 I	
15	修士論文の構想 II	論文構想の発表 II	
16	修士論文のレジュメの書き方	修士論文構想の発表 III	
実践	テキスト・参考文献・資料など 佐久本著「能力主義管理の国際比較」 教科書 技術革新下の労働と日本型企业社会 INNOVATION AND THE JAPANESE STYLE OF BUSINESS SOCIETY 著 者 佐久本朝一 発行所 国際経営研究所		
	学びの手立て 講義時間外で講義に展開されている専門書を読んでくれることが望ましい。		
	評価 レポートの提出2回（25点+25点）出席および議論への参加（50点）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 比較経営特殊研究、人的資源管理論など。
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ビジネス特論	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也、宮森 正樹	1年	宮森正樹 Email: miyamori@okiu.ac.jp 原田優也 Email: mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、沖縄小売流通業、地域流通のマーケティング、アジア消費行動、アジア広告戦略、海外市場の日本型コンビニの出店戦略などの国内外ビジネス現状を学び、実践的な分析能力を養うことを目的とする。	メッセージ 1) 授業を講義形式とディスカッション形式を採用する。 2) 地域小売業の現状を解説しながら、ビジネスケーススタディを紹介する。
	到達目標 小売業などに関するビジネス基礎について理解できる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画			時間外学習の内容
	回	テーマ		
	1	2019年8月12日(月) 1限 宮森正樹	オリエンテーション	
	2	2019年8月12日(月) 2限 宮森正樹	沖縄の小売流通業の概況	
	3	2019年8月12日(月) 3限 宮森正樹	全国の小売流通業の概況	
	4	2019年8月12日(月) 4限 宮森正樹	世界の小売流通業の概況	
	5	2019年8月12日(月) 5限 宮森正樹	地域流通のマーケティング 1	
	6	2019年8月12日(月) 6限 宮森正樹	地域流通のマーケティング 2	
	7	2019年8月13日(火) 1限 原田優也	ビジネスとしての流通産業、起業	
	8	2019年8月13日(火) 2限 原田優也	ビジネスとしての流通産業、発展	
	9	2019年8月13日(火) 3限 原田優也	ケーススタディ：アジア消費者行動 1	
	10	2019年8月13日(火) 4限 原田優也	ケーススタディ：アジア消費者行動 2	
	11	2019年8月13日(火) 5限 原田優也	ケーススタディ：アジア広告戦略 1	
	12	2019年8月13日(火) 6限 原田優也	ケーススタディ：アジア広告戦略 2	
	13	2019年8月14日(水) 1限 原田優也	ケーススタディ：アジア市場の日本型コンビニ 1	
	14	2019年8月14日(水) 2限 原田優也	ケーススタディ：アジア市場の日本型コンビニ 2	
15	2019年8月14日(水) 3限 原田優也	ケーススタディ：アジア観光ビジネス 1		
16	2019年8月14日(水) 4限 原田優也	まとめ		
テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて講義中に紹介します。				
学びの手立て 経営・マーケティングに関するビジネス課題の文献を読んでおくこと				
評価 発表(50%)、レポート(50%)				

学びの継続	次のステージ・関連科目 マーケティング特殊研究I、マーケティング特殊研究II、比較経営特殊研究I、比較経営特殊研究II、
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング・コミュニケーション特論	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也・宮森 正樹	1年	原田優也 Email: mongkhol@okiu.ac.jp 宮森正樹 Email: miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい マーケティングコミュニケーションのツールを理解する。	メッセージ 演習、実習の形式を併用して授業を行う。
	到達目標 企業のマーケティングコミュニケーションの役割について理解できる。	

学びの準備	到達目標 企業のマーケティングコミュニケーションの役割について理解できる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 第01回 2019年8月15日、木1限、原田優也 シラバス説明 第02回 2019年8月15日、木2限、原田優也 マーケティングコミュニケーション (MC) とは 第03回 2019年8月15日、木3限、原田優也 MCとブランド戦略 第04回 2019年8月15日、木4限、原田優也 MCとブランド認識 第05回 2019年8月15日、木5限、原田優也 MCと商品開発 第06回 2019年8月15日、木6限、原田優也 MCとバズマーケティング 第07回 2019年8月16日、金1限、原田優也 MCの課題発表1 第08回 2019年8月16日、金2限、原田優也 MCの課題発表2 第09回 2019年8月16日、金3限、宮森正樹 広告の基本概念 第10回 2019年8月16日、金4限、宮森正樹 広告ビジネス1 第11回 2019年8月16日、金5限、宮森正樹 広告ビジネス2 第12回 2019年8月16日、金6限、宮森正樹 セールス・プロモーション 第13回 2019年8月17日、土1限、宮森正樹 人的販売 第14回 2019年8月17日、土1限、宮森正樹 パブリシティ 第15回 2019年8月17日、土1限、宮森正樹 パブリック・リレーションズ 第16回 2019年8月17日、土1限、宮森正樹 まとめ
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて講義中に紹介します。
	学びの手立て 経営・マーケティングに関するビジネス課題の文献を読んでおくこと
	評価 発表 (50%)、レポート (50%)

学びの継続	次のステージ・関連科目 マーケティング特殊研究I、マーケティング特殊研究II
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング特殊研究 I	通年	木 6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	1年	研究室：5633 mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本特殊研究は、次の2項目について指導する。①マーケティング・モデル：第1は、エリアマーケティングの理論とケーススタディの紹介である。ビジネスにおけるマーケティングの役割、価値生成の原理、マーケティング環境分析、マーケット・セグメンテーション、ターゲティングとポジショニングについて概説する。次に、製品開発、価格設定、プロモーション、流通の各段階において競争優</p> <p>到達目標</p> <p>修士論文作成に必要なマーケティング分析手法を把握する。</p>	<p>演習、実習の形式を併用して授業を行う。</p>

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>【第1セメスター】</p> <p>1週：オリエンテーション 2週：修士論文とは 3週～5週：先行研究 6週～7週：調査方法 8週～11週：仮説設定 12週～14週：研究課題発表 15週：研究計画書の修正 16週：研究計画書の提出</p> <p>【第2セメスター】</p> <p>17週：後期日程のガイダンス 18週：特定課題の選定 19週～25週：課題報告と討論 26週～31週：レポート（中間報告書）の提出</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>講義中に紹介します。 英文献を含め、必要に応じて講義中に紹介します。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>マーケティング、消費者行動、ブランド戦略、広告戦略などの関連書籍を読んで予習・復習を行う。</p>
	<p>評価</p> <p>課題の発表（30%）、研究計画書・レポート（50%）、平常点（20%）</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>マーケティング特殊研究II</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング特殊研究Ⅱ	通年	木7	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	2年	研究室：5633 mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	第1年次末に選定したマーケティング課題（消費者行動、企業戦略、経営戦略など）に関する修士論文のテーマに基づき、論文の書き方、調査の進め方を指導する。必要な情報やデータの収集を行わせると共に、研究内容について討論を重ねながら修士論文を完成させる。	演習、実習の形式を併用して授業を行う。

到達目標	修士論文作成に必要なマーケティング分析手法を把握する。
------	-----------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 【第1セメスター】 1週～3週：修士論文のテーマ発表 6週～10週：修士論文テーマの討論と修正 11週～14週：中間報告の作成 15週：修士論文の中間報告の提出と発表 【第2セメスター】 16週～20週：修士論文原稿作成と討論 21週～25週：修士論文原稿作成と討論 26週～29週：修士論文の修正 30週～31週：修士論文の完成
	テキスト・参考文献・資料など 講義中に紹介します。

学びの手立て	マーケティング、消費者行動、ブランド戦略、広告戦略などの関連書籍を読んで予習・復習を行う。
--------	---

評価	出席、発表、修士論文提出などを総合的に評価する。
----	--------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 博士後期課程、研究者
-------	---------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング・マネジメント特論	通年	木5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	1年	原田優也研究室 (5633号室) mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、消費者行動の実証的研究を指導することにより、消費者情報処理に関する実践的な分析能力を養うことを目的とする。消費者の調査方法論について講義し、各自が具体的な調査プロジェクトを計画し、情報の収集からデータの整理と要約、仮説の統計的検定法について統計分析実習と並行して調査プロジェクトを進める。	メッセージ 授業計画は学習状況によって変更することがある。
	到達目標 マーケティング役割、戦略計画とマーケティング・プロセスなどを理解する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	資料1を読む
	2	消費者行動の定義と概念	資料1を読む
	3	マーケティングの概念と発展	資料1を読む
	4	プロジェクト・テーマの決定と説明	資料2を読む
	5	製品ライフサイクル	資料2を読む
	6	製品差別化と消費者購買意思決定	資料2を読む
	7	広告戦略と消費者行動	資料3を読む
	8	価格プレミアムと消費者の購買行動	資料3を読む
	9	购买前・購買・購買後の消費者行動分析	資料3を読む
	10	消費者の意思決定過程と情報処理	資料4を読む
	11	消費者心理と購買意志決定1 (外部要因)	資料4を読む
	12	消費者心理と購買意志決定2 (内部要因)	資料4を読む
	13	マーケティング課題の発表1	発表課題の情報収集
	14	マーケティング課題の発表2	発表課題の情報収集
	15	マーケティング課題の発表3	発表課題の情報収集
	16	中間レポートの提出	レポートの作成
	17	後期日程のガイダンス	発表課題の情報収集
	18	マーケティング課題の報告と討論	発表課題の情報収集
	19	マーケティング課題の報告と討論	発表課題の情報収集
	20	マーケティング課題の報告と討論	発表課題の情報収集
	21	マーケティング課題の報告と討論	発表課題の情報収集
	22	マーケティング課題の報告と討論	発表課題の情報収集
	23	マーケティング課題の報告と討論	発表課題の情報収集
	24	マーケティング課題の報告と討論	発表課題の情報収集
	25	マーケティング課題の報告と討論	発表課題の情報収集
	26	マーケティング課題の報告と討論	発表課題の情報収集
	27	マーケティング課題の報告と討論	発表課題の情報収集
	28	マーケティング課題の報告と討論	発表課題の情報収集
	29	マーケティング課題の報告と討論	発表課題の情報収集
30	レポート内容の点検	レポート作成の準備	
31	レポートの提出		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて講義中に紹介します。 英文献を含め、必要に応じて講義中に紹介します。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 授業では毎回報告者を決めておき、報告者はレジュメを準備して報告する。 授業に参加し、積極的に学ぶ姿勢（パティシペーションなど）が必要である。</p>
学 び の 継 続	<p>評価 発表(50%)、レポート(50%)</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 マーケティング特殊研究I・マーケティング特殊研究II</p>